

地域語復興運動の日韓比較研究 — 沖縄と済州の場合 —

1. 共通の現実
2. 言語復興運動 2.1. 言語復興運動の背景/ 2.2. 沖縄の場合/ 2.3. 済州の場合
3. 沖縄語と済州語
4. 方言の日条例と方言育成条例
5. 地域語復興運動の事例比較 5.1. 方言イベントと方言商品/ 5.2. 地域の言語文化の活性化
6. まとめ

沖縄の地域語復興運動は、沖縄語が消滅するという危機感、言語を基盤とする民俗芸術の認定、自立論議とともに始まった。済州の地域語復興運動の実際的なきっかけになったのは、済州を英語公用語地域化するという論議が始まり、それが住民のアイデンティティを刺激するようになり、相対的に弱者である地域語に対する愛着を住民が表すようになったことである。言語復興運動の展開において、言語使用が拡大する以前に共通する出発点になるのは、言語の名称に関する論議である。沖縄の言語を「沖縄語」または「琉球語」と呼ぶのは独立言語として認識しようとする努力である。しかし、済州方言を「済州語」と命名したのは地域語の地位を向上させようとする努力の一つであり、独立言語として認識しようとする意味を持つものではない。地域語復興運動の法律的な仕掛けとして、沖縄県は各地域の「しまくとぅば」を奨励し、次の世代に継承していく趣旨で 2006 年 3 月「しまくとぅばの日に関する条例」（条例第 35 号）を制定するにいたった。済州では、済州方言の保全及び育成を通じて、地域の文化と歴史を継承・発展させていくことによって、郷土文化の発展に寄与することを目的として、2007 年 9 月「済州語保全及び育成条例」（条例第 280 号）を制定するにいたった。この条例は、済州語発展基本計画、済州語審議委員会の設置、済州語研究所設置、済州語の教育と普及、済州語週間の指定などで構成されている。沖縄の「しまくとぅばの日」条例より事業内容と育成方案などが具体的である。

方言放送プログラム、方言スピーチコンテスト、方言普及運動、方言看板、方言ブランド名、方言お土産などの事例は、2つの地域に共通のことがらである。このようなイベントの開催や民俗芸術の活性化は地域語復興運動のきっかけや出発点にはなりうるが、その目標にはなり得ない。文化財に指定されたものを再生することは民俗芸術の伝承にはなるが、実際的な地域語復興運動にはなり得ない。言語の基本的な機能はコミュニケーションである。地域語がコミュニケーションの機能を果たせずに民俗芸術やお土産にだけ使用されるとすれば、その言語は民俗品になってしまう。地域語は地域共同体で生活するための手段である。地域語の復興とは方言の原型を維持することではない。地域語のコミュニケーション機能を維持しながら、地域語を媒体にした創作活動を活性化することによって地域文化の伝承に結び付けることである。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

題名 : 地域語復興運動の日韓比較研究 - 沖縄と済州 -
発表者 : 金 恩希 (耽羅大学)
会議名 : 国際学術シンポジウム及び第80回学術会議 (主催: 韓国日本学会)
日時 : 2010年2月5日~6日
場所 : 韓国漢陽大学 白南学術情報館

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

論文名 : 地域語復興運動の日韓比較研究 - 沖縄と済州の場合 -
発表者 : 金 恩希 (耽羅大学)
論文掲載誌名 : 日本学報 第83号 pp.13-24 (韓国日本学会 2010年5月30日
発行) (<http://kaja.or.kr> PDF掲載)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

A Japan–Korea Comparative Study about Regional language Revitalizations

Key words: Regional speech, Dialect, Language revitalization, Okinawan language, *Jeju* dialect, Dialect ordinance, Dialect events, Dialect souvenirs

This study compared Okinawa in Japan and *Jeju* in South Korea concerning the language revitalizations.

Language revitalization is the attempt by interested parties, including individuals, cultural or community groups, governments, or political authorities, to reverse the decline of a language.

The process of language revitalization is the reverse of language death.

The background of the language revitalization in Okinawa is related to racial independence. Therefore the Okinawa people try to protect their language.

Jeju people looked for their identities through their language, in two flows of globalism and regionalism. It is a background of the language revitalization. Language standardization has already been completed in both areas. This is a common background.

The Okinawa prefectural assembly enacted the ordinance of “ Day of the dialect” .

The *Jeju* provincial assembly enacted the ordinance of the dialect promotion. This is the first case that the local government started the protection of their language.

A regional language indicates the cultural diversity in a language community. In both areas, the events of the same kind are held for the activation of regional languages. For instance, a speech contest in a dialect, dialect signboards, and a dialect souvenir, and so on.

It is not a true revitalization to protect a regional language like a cultural asset. A true revitalization is to recognize the regional language as a means of communication in the language community.

Publication of the Results of Research Project:

Verbal Presentation

Title : A Japan-Korea Comparative Study about the Regional languages
Revitalization

Presenter : KIM Eun Hee (Tamna University)

At International Symposium and The 80th conference on sponsoring Korea
Association of Japanology

Date : 5-6, February, 2010

Where : Hanyang University in Seoul

Thesis (Name of Journal and its Date, Title and Author of Thesis, etc.)

Title : A Japan-Korea Comparative Study about the Regional language
Revitalization

Author : KIM Eun Hee (Tamna University)

Journal : The Korean Journal of Japanology, vol.83, pp. 13-24
Korea Association of Japanology (<http://kaja.or.kr>)

Book (Publisher and Date of the Book, Title and Author of the Book, etc.)

以上